~在籍60年会員からのお便り~

「会報」と私

北海道大学名誉教授 中 村 義 男

12支が5回巡って60年、古来60年は祝うべき節目の年とされていますが、今年は丁度「日本金属学会会報」の創刊60年目に当ります。私の会員歴も60年となりました。この機会に長年にわたって「会報」の刊行にご尽力された方々に心からのお祝いと感謝を申し上げます。「会報」の創刊号は確か私の手元のある筈だと思って、本箱を探しましたが見つからず、その代わりに幾冊かの古い会報と「日本金属学会50年史」(1987)という冊子が出てきました。冊子には数々の写真を交えて、昭和12年(1937)創立以来の金属学会の歴史が綴られていました。多くの変遷を経たのちに、1962年6月から論文誌の「金属学会会誌」と啓蒙記事の「金属学会会報」の2本立て体制となったことを改めて知りました。

私は1960年に北海道大学理学部化学科を卒業して、そのまま修士課程に進み、丹羽貴知蔵先生の無機化学講座に所属して金属化学の研究を始めました。修士課程1年目のとき、丹羽先生から大変勉強になると勧められて、金属学会へ入会しました。入会は1961年1月となっています。修士時代から定年退職に至るまで、私は金属学会によって育てられたのだと、いま改めて強く思っています。とりわけ「会報」の中の多くの先達が書かれた「解説」や「集録」の記事は、私にとって掛替えのない「教科書」でした。

その「会報」へ私自身が初めて執筆する機会を与えられた 時には、大いに緊張しました.「会報」8巻9号(1969)の集 録記事『液体半導体―溶融金属化合物の物性―』⁽¹⁾(図 1)がそれです。当時の自分自身の研究テーマだったので,集めた参考文献を洗いざらい並べました。その後,20巻4号(1981)に『金属―非金属溶液の性質』⁽²⁾(図 2)という「解説」記事を書くことになりました。液体半導体から始まった私の研究の対象全体を紹介する機会となって嬉しく思いました。ただ私のこれらの記事が,他の方々に何かのお役に立ったのだろうかと,今更ですが些か心許なく思っています。

「会報」は今も私のもとにも届き、あちこち頁を捲って拾い読みしています。60巻3号では特に、齋藤理一郎氏のカーボンナノチューブの記事⁽³⁾を興味深く読みました。フラーレン分子の理論研究の先駆者である大澤映二氏のお名前も挙がっていましたが、当時大澤氏は北大理学部ではお向かいの研究室でした。随分と個人的なことを書き連ねましたが、表題に免じてお許しの程お願いいたします。

文 献

- (1) 中村義男:日本金属学会会報,8(1969),610-620.
- (2) 中村義男:日本金属学会会報, 20(1981), 257-263.
- (3) 齋藤理一郎:まてりあ,60(2021),147-150.

2000年 北海道大学名誉教授

(2021年4月12日受理)[doi:10.2320/materia.60.430]

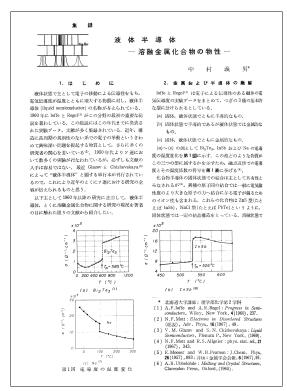


図1 日本金属学会会報掲載記事:文献(1)より.

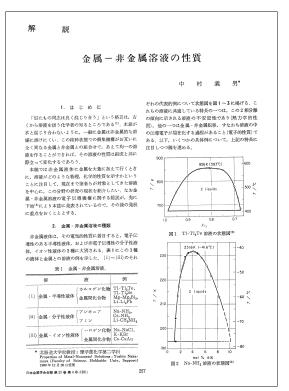


図2 日本金属学会会報掲載記事:文献(2)より.